

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

第6回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認 (p.2)
- 専門研修の検討に当たっての留意事項 (p.3)
- 専門研修の全体カリキュラムの確認 (p.4~p.7)
- ファシリテーター向け グループワークをファシリテートする上での留意事項 (p.8)
- 研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について (p.9)
- **事業所向け研修演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討 (p.10~p.11)**
- **令和4年度「東京都障害者ピアサポート研修に係る検討事項案」**
(別紙参考資料有)

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

R 3年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	第1回		第2回	第3回	第4回		第5回	第6回
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> 養成するピアサポーター像 検討課題整理 		<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修講義内容検討 基礎研修演習の検討課題整理 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討 	<ul style="list-style-type: none"> 専門研修講義内容検討 専門研修演習の検討課題整理 		<ul style="list-style-type: none"> 専門研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討 	<ul style="list-style-type: none"> 専門研修演習ワークショップ用資料検討 次年度引継事項整理



R 4年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月
研修実施		基礎研修 2回 計4日間			専門研修 2回 計4日間			フォローアップ研修 2回 計4日間	
カリキュラム検討	第1回		基礎研修 振り返り (方法は 検討中)			第2回	第3回		第4回
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の振り返り 講師の決定 フォローアップ研修演習の検討課題整理 				<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修、専門研修の反省を踏まえた検討課題再整理 フォローアップ研修教材検討、ワークショップ用資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修ワークショップ用資料作成 講師の決定 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップの反省点の振り返りと年間まとめの回 		

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

第4回資料再掲

専門研修検討に当たっての留意事項

- 第1回でのご説明のとおり、東京都の専門研修は、**障害領域別ではなく共通内容での実施**を想定している。障害領域を超えた意見交換や相互理解の充実も狙っている。
 - 各障害領域の当事者が一緒に研修を受講することになるため、**各障害領域の当事者に配慮した研修とする**。それぞれの専門領域で培ってきた、いいところを持ってきて、組み立てていきたい。
 - **各障害領域に共通して伝わりやすいかという視点で、必要に応じて表現の工夫が必要。**
 - 国テキストを使用しつつも、専門用語・カタカナ語については、各障害領域に共通して伝わりやすい補足説明を付ける。
 - (例①) 「セルフマネジメントとバウンダリー」という項目名⇒「ピアサポーターが葛藤しやすい状況」と副題で補足を付ける 等
 - (例②) 「リカバリー」⇒「障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きる」(リカバリー) 等
- ※各障害分野の歴史的背景や理念などが深く関係している用語について、全て置き換えるのは適切ではない。あくまで、用語は残しつつ、説明を追加する。

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●研修の全体像・専門研修のねらい ●グループワークのグラドルール 	研修事務局	10時20分～10時30分(10分)	
1 基礎研修の振り返り	●基礎研修の振り返り	・1人(岩崎委員長)	10時30分～11時00分(30分)	p.3～p.4
2 ピアサポーターの基礎と専門性	●障害特性に応じた専門性	・当事者1人(小阪委員)	11時00分～11時40分(40分)	p.5～p.10
(15分休憩)				
3 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ●講義2の振り返り、気付きの共有 ・(例)「リカバリーストーリーを書いてみましょう」、「各々のリカバリーストーリーを聴いてみましょう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・<u>受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳</u>の各障害領域から選任 ・演習統括は、小阪委員 	11時55分～12時55分(60分)	p.10
(60分昼休憩)				
4 <u>ピアサポート</u> の専門性の活用	●障害特性に応じた <u>ピアサポート</u> の専門性を活かすための視点	・当事者1人(秋山委員)	14時00分～14時40分(40分)	p.11～p.17
5 演習②	<ul style="list-style-type: none"> ●講義4の振り返り、気付きの共有 ・事例の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・<u>受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳</u>の各障害領域から選任 ・演習統括は、秋山委員 	14時20分～14時50分(30分)	p.16
(15分休憩)				
(次のページに続きます。)				

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
6【障害者】 関連する保健 医療福祉施策の 仕組みと業務の実際	●関連法、関連施策	・専門職1人(検討委員会委員等)	14時50分～15時 30分 (40分)	p.18～p.25
6【事業所】 ピアサポートを活用す る技術と仕組み	●現場におけるピアサポートの活用 方法	・専門職1人(検討委員会委員等)		p.26～32
(15分昼休憩)				
7【障害者】演習③	●講義6の振り返り、気付きの共有 ・(例)「『自分だったらこの機関(事業所)で 働いてみたい』というところがありますか」、 「自分自身が利用したことがなかったり。あ まり知らないサービスについて詳しく知るに はどうしたら良いでしょうか。情報を共有して みましょう」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計6人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、検討委員会委員等	15時45分～ 16時25分 (40分)	p.25
7【事業所】演習③	●演習6の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理解し ていましたか」、「雇用する側として困ったこ とはありましたか。あるとすれば、どのように 解決していけるとお思いますか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計4人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.32
8 演習④	●障害者、事業所職員別講義及び 演習内容についての共有	・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精 神、身体、知的、難病、高次脳 <small>の各障 害領域から選任</small> ・演習統括は、講義講師	16時25分～ 16時45分 (20分)	

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
9【障害者】 ピアサポーター としての働き方	●労働法規	・1人(検討委員会委員等)	10時30分～11時00分 (30分) ※障害者と事業所で 別教室で実施	p.26～32
9【事業所】 ピアサポーターを 活かす雇用	●ピアサポーターを雇用し、協働する 上での留意点 国要綱のとおりだが、「ピアサポーターを活かす」のままで良いか	・1人(検討委員会委員等)		p.42～p.55
10【障害者】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理解 していましたか」、「雇用される側として 困ったことはありましたか。あるとすれば、 どのように解決していけるとおもいますか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計6人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師	11時00分～ 11時40分 (40分)	p.32
10【事業所】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)『ピアサポーターがいることで、利 用者に対する愚痴を言いにくくなったと専 門職がこぼしている』、『ピアサポーター がなかなか自分の意見を言わない』、『ピ アサポーターと他の職員で意見が衝突し た』、『ピアサポーターが職場を休みがち になっている』といった場合にどう対処し ますか」、「ピアサポーターと働く上での期 待/不安はどのようなことですか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計4人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.47、p.55
(60分昼休憩)				

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
11 セルフマネジメントとバウンダリー	<ul style="list-style-type: none"> ●ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ●病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア 	・当事者1人(小阪委員)	12時40分～ 13時10分 (30分)	p.33～p.37
副題(仮) : ピアサポーターが葛藤しやすい状況				
12 演習⑥	<ul style="list-style-type: none"> ●講義11の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが自分の病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか」、「あの時バウンダリーを意識していれば良かったと振り返ることはありますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、小阪委員 	13時10分～ 13時50分 (40分)	p.37
(15分休憩)				
13 チームアップローチ	<ul style="list-style-type: none"> ●所属機関(チーム)におけるピアサポーターの役割と協働における留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者1人(検討委員会委員等) ・専門職1人(検討委員会委員等) 計2人 	14時05分～ 14時45分 (40分)	p.38～p.41
(15分昼休憩)				
14 演習⑦	<ul style="list-style-type: none"> ●講義13の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう」、「チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、講義講師 	15時00分～ 16時00分 (60分)	p.41

東京都障害者ピアサポート研修 演習概要

第3回資料(修正版)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、事前に事務局よりファシリテーターを担っていただく方に共有することを想定しています)

【ファシリテーターの方へ】 グループワークをファシリテートする上での留意事項

- ❑ 参加者の中には「グループワークがはじめて」という方もいます。アイスブレイクを行うなどして、場の雰囲気を含めましょう。
- ❑ 参加者から意見を引き出す立場であることを意識し、ファシリテーターが話しすぎないようにしましょう。
- ❑ 参加者同士の意見の対立があった際には、どちらも否定せず、柔軟に対応しましょう。
- ❑ 遠慮がちな方がいたら、意識的に声掛けをし、参加者が均等に話ができるよう配慮しましょう。

各演習で、最低1回ずつ、参加者の方が発言できることが理想です。

もし、1人の方が話し続けてしまう場合は、時間で区切って、次の方に話を譲っていただくなどの柔軟な対応も必要です。

東京都障害者ピアサポート研修 演習概要

第3回資料(修正版)

研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について

配慮が必要なこと

ファシリテーターも緊張する！
ファシリテーターの緊張感の緩和が必要



対応策

- ・ファシリテートする上での留意事項を事前に共有
- ・演習で想定される参加者からの疑問への対応案などをまとめ、**ファシリテーター用持ち資料**として提供

ファシリテーター用持ち資料案
を本委員会で検討

配慮が必要なこと

担当するグループの参加者について
どんな人が参加するかわからないと不安



対応策

- ・当日担当するグループの参加者の情報（障害領域、ピアサポーターとしての経験値、研修への付き添いの方の同行有無、受講目的等）を、事前にファシリテーターに共有

演習③

ピアサポートを活用する技術と仕組み

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポーターにとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを考える。一緒に働く職員にとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを検討し、尊重しあえる関係性をつくっていくことの重要性を理解する。

設問

以下のような状況になるかもしれません。
なぜ、これらの状況に陥ってしまうのか、背景を考えてみましょう。
それから、そうした状況を未然に防ぐにはどうしたら良いか、そうした状況に陥ってしまった場合にはどうしたら良いか、意見を出し合ってみましょう。

(※ グループの状況を見ながら取り上げる課題は選択)

- ・ピアサポーターがいることで、利用者に対する愚痴を言いにくくなった(言いにくくなるのではないかと専門職がこぼしています)
- ・ピアサポーターがなかなか自分の意見を言ってくれません
- ・ピアサポーターと他の職員とで、意見が衝突しました
- ・ピアサポーターが職場を休みがちになっています

ディスカッションを円滑に進めるために

ファシリテーターからの
「振り」の投げかけ(例)

ピアサポーターがなかなか自分の意見を言えない背景を考えてみましょう。
(たとえば…
専門職に遠慮/委縮している?
守秘義務を破ってしまうのではと心配で相談できない?)

想定される懸念



専門職

「ピアサポーターを事業所で実際に雇用していないので、対応策をイメージできません」

ファシリテーターとしての対処法

- ・ピアサポーターの導入前にも生じやすい課題、雇用前の事業所の専門職でもイメージしやすい課題から話し合う。
- ・実際にピアサポーターを雇用している事業所から順番に話を聞き、雇用前の事業所の専門職にはイメージを含ませてもらう。

ファシリテーターのポイント

講義内容(ピアサポーターが勤務先の職員に望むこと等)に立ち返りながら、「職場全体としてできること」に主眼を置いた建設的な話し合いとなるようにする。

演習⑤ ピアサポーターを活かす雇用

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポーターの雇用について調査結果や実践例を確認しながら現状を知る。

設問

以下の点について、グループで意見交換をしてみましょう。

- ・あなたの機関において、ピアサポーターと共に働く上での期待はどのようなことでしょうか。

回答例

講義内容に立ち返る。

- ・利用者の本当のニーズを既存の専門家とは違った視点で考えられる。
- これから自分が何をしたらよいか分からない利用者に対し、モデルとなり説得力のある説明ができる。
- ストレングス思考、リカバリー思考の共有
- 利用者仲間意識を共有しやすく、支援チームとの早期の関係性の構築に繋がることもある。

想定される懸念



専門職

「期待は持っているけれども、実際に上手くいくか不安です…」

ファシリテーターとしての対処法

「これまでの講義で聞いた内容から、振り返ってみましょう」

ピアサポーターが活躍しやすい条件には、どんなことがあったでしょう？

ピアサポーターと専門職が協働できる働き方をするために、雇用前に事業所ではどのような準備ができると思いますか？

ファシリテーターのポイント

講義で触れた調査結果や実践例を振り返りながら、ピアサポーターを雇用することによる期待されることを具体的にイメージしてもらう。